

## 2 自動車の排出ガス問題の現状

運輸部門の道路交通環境問題としては、自動車から排出される二酸化窒素（NO<sub>2</sub>）などの窒素酸化物（NO<sub>x</sub>）や粒子状物質（SPM）等によって生じる大気汚染があります。NO<sub>x</sub>は、酸性雨や光化学スモッグの原因となるばかりでなく、人体（呼吸器）に悪影響を与え、またSPMも、肺や気管支等に沈着して呼吸器に悪影響を与えると言われています。

NO<sub>2</sub>について2022年度の環境基準達成率は、一般環境大気測定局<sup>※1</sup>（一般局）では近年すべての測定局で環境基準を達成しており、2006年度から17年連続で100%となりました。自動車排出ガス測定局<sup>※2</sup>（自排局）においても100%と全ての有効測定局で環境基準を達成しました。

SPMについて2022年度の全国での環境基準達成率は、一般局で100%、自排局で100%であり、2021年度（一般局：100%、自排局：100%）に続き、全ての有効測定局で環境基準を達成しました。

※1 一般環境大気測定局：一般大気汚染状況を常時監視する測定局。（全国：1,403局）

※2 自動車排出ガス測定局：自動車走行による排出物質に起因する大気汚染の考えられる交差点、道路及び道路端付近の大気を対象にした汚染状況を常時監視する測定局。（全国：379局）